

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：16101

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K21722

研究課題名（和文）外国人児童生徒の健康支援に向けた保健サービスシステム構築の検討

研究課題名（英文）Examination of the health service systems construction for the healthy support of the foreign child student

研究代表者

田中 祐子（TANAKA, Yuko）

徳島大学・大学院医歯薬学研究部（医学域）・准教授

研究者番号：10535800

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：在日外国人児童生徒は、滞在年数が長くなるにつれ、彼らの進路や親との関係、いじめなどが、身体への不調を増加させ、健康を脅かしていることがわかった。かれらは、日本語の習得以上に学習言語への進路の壁がある。更に在留資格等の問題を抱える場合が多いため、将来の不安もあり、日本の子どもの健康問題以上に、精神面への悪影響が懸念される。従って、早急に、学校保健の役割として、以下の取り組みが緊急の課題であると考え、全職員が在日外国人児童生徒の心身の健康について理解し配慮すること、グローバルな視点をもつ養護教諭の育成・異文化をもつ子どもの成長段階に応じた、心身の健康管理について支援すること

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで在日外国人の子ども健康に関する研究において、子ども本人を対象とした研究は殆ど実施されていない。本研究の意義は、教育機関が在日外国人の子ども健全育成へ向けた健康支援の方策を検討する一助になり得ることである。また、それらを通してWHOが提唱するヘルス・フォー・オール「すべての人に健康を」、SDGsのゴール3（すべての人に健康と福祉を）及び4（質の高い教育をみんなに）、国が推進する多文化共生社会の実現に貢献できると考える。

研究成果の概要（英文）：It found that as the length of time foreign children and students in Japan have stayed in Japan, their career paths, relationships with parents, bullying, and other factors have led to an increase in physical ailments and threats to their health. They face a greater barrier to learning languages than learning Japanese. Moreover, since many children have problems with their immigration status, they are worried about their futures, and even more than the health problems of children in Japan, there are concerns that this will have a negative impact on their mental health. Therefore, we believe that the following efforts are urgently needed as part of the role of school health. All teachers must understand and consider the mental and physical health of foreign children and students residing in Japan.

Developing school nurses with a global perspective・Support for mental and physical health management according to the growth stage of children with different cultures

研究分野：思春期の健康

キーワード：思春期 学校保健 在日外国人児童生徒

1. 研究開始当初の背景

(1) 在日外国人の子ども達の環境

日本社会の国際化・グローバル化の推進に伴い、在留外国人が著しく増加している。そのような背景の中、家族である外国にルーツを持つ子どもの数も増加している(文部科学省 令和元年)。公立学校では、在日外国人の子ども達に対し、日本語指導や教科の補習などの指導を行っているが、日本語指導が必要な児童生徒数は平成 30 年度 51,126 人であり、平成 28 年度調査から 7,178 人(16.3%)増加しているが、実際にはそれらの子どもの約 7~8 割しか、日本語指導を受けられておらず、受け入れ体制が不十分であることが指摘されている(文部科学省 平成 30 年)。従って、多くの在日外国人児童・生徒は、日本語の理解が困難な中で学校生活を送っていると考えられる。

(2) 学校保健に求められる在日外国人の児童生徒への健康支援と課題

平成 25 年度の内閣府による小中学生の意識から、小学生の 47.9%、中学生の 72.3%が、何らかの不安や悩みを抱えている状況が報告されている。平成 29 年度に文部科学省は、いじめをはじめ深刻化する子どものメンタルヘルスに対し、学校保健における健康支援を強化する必要性を指摘している。こうした子どもの環境において、言葉や文化の異なる在日外国人児童生徒にとっては、彼らの不安や悩みはより深刻で、かつ何らかの健康課題を抱えやすいことが推察される。特に思春期は、性の問題や将来への不安も増え、悩みは複雑に多様化する一方、友達や大人への相談をためらう時期でもあるため、早期に彼らの不安や悩みから起きている健康課題を明らかにし、健全育成に向けた支援を検討する必要がある。

2. 研究の目的

質問紙を用いて、在日外国人の子ども達の不安や悩みと健康課題を明らかにし、彼らが日本の学校で心身ともに健康に学校生活を送ることができるように、学校保健の役割と健康支援の強化に向けた保健サービスシステムの構築を検討することである。

3. 研究の方法

第一段階：在日外国人児童生徒の不安や悩み、心身の健康の実態把握

(1) 本研究における在日外国人児童生徒の定義

本研究において「在日外国人児童生徒」とは、日本国籍の有無に関わらず、両親のどちらか又は両方が外国籍など外国にルーツを持つ児童生徒とする。そのため、依頼文・質問紙等を外国につながりをもつ児童生徒と記した。

(2) 対象者の選定

公立学校に通う小学 6 年生から中学 3 年生である。ホームページに掲載されている大阪府および神戸市をはじめ、姫路市、出雲市、亀岡市、津市に所在する外国人支援 NPO 団体、教育委員会等に、研究協力を文書と口頭で依頼を行った。協力が得られた団体等を通して、保護者または子どもへ研究協力依頼文書兼同意書、子ども用の調査票および依頼文書、返信用封筒の一式が入った封筒を配布した。回収は、保護者の同意書および記入済みの調査票を返信用封筒に入れ、NPO 団体施設または、学校の日本語教室の回収箱等で集め、または個人がポストへ投函して回収した。配布・回収にあたっては、大阪府の各市及び神戸市が定める感染予防対策に従うとともに(マスク着用、施設入り口での手指消毒等)、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための神戸大学の活動制限指針」及び「保健学研究科・保健学科の授業等運営方針」の規定に則って調査を実施した。

(3) 調査項目と言語

属性と登校状況、健康状態(不定愁訴 14 項目)、生活習慣(5 項目)、最近一年間の悩みや不安(3 項目)、性に関する教育について(5 項目)、健康への対処について(2 項目)、家で様子について(3 項目)、楽しみや夢(3 項目)の計 8 領域から構成し、回答に 20 分程度要する。

の不定愁訴 14 項目は、小中学生はもとより高校生に使用されている項目であり(小林 2018 年) それぞれの項目について「毎日ある」を 3 点から「全くない」を 0 点として点数化した。また 14 項目全て合計したものを不定愁訴総得点とする。の最近一年間の悩みや不安の項目は、小中学生に多い悩みに加え、言葉・食べ物・国籍・地域や海外の親戚等の文化的相違に関する項目を含む。調査票は日本語、英語、中国語、ベトナム語、韓国語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、パキスタン語、ネパール語、スリランカ語の 11 バージョンを用意し、日本語版と協力施設の対応言語の調査票をセットして配布した。

(4) 分析方法

得られたデータから一次集計を行い、健康状態、不安や悩みなど全体の傾向を把握するとともに、主な使用言語、性別、校種別に同様の傾向を把握する。不定愁訴および悩みや不安を従属変数、単変量解析でそれらの項目と有意な関連が認められた項目を独立変数とした多変量解析を実施した。統計解析ソフトは、IBM SPSS Statistics 28を使用した(有意水準は5%未満とした)。尚、神戸大学大学院保健学研究科倫理委員会の承認後、実施した。

第二段階：在日外国人児童生徒の教育環境

(1) NPOの主催する日本語教室、学校の学習教室、保健室での様子を担当者に在日外国人児童生徒の利用状況から不安や悩みや心身の状態についての配慮等をインタビューした。

4. 研究成果

(1) 在日外国人児童生徒の不安や悩み、心身の健康の実態の結果

有効回答数は127のうち、小学6年生38人(男子18人、女子20人)、中学生89人(男子41人、女子45人、わからない3人)であった。日本での滞在期間10年以上が59人(46.5%)で、一番よくわかる言語は日本語が71人(55.9%)で最も多かった(表1から表1-3参照)。

滞在年数別に「今一番困っていること」では、5年未満は日本語に関することが多く、5年以上10年未満では、進学や友人関係であり、10年以上では身体のこと、将来などがあり、どのグループにおいても家族の悩みが入っていた(表2参照)。

また不定愁訴得点は、滞在年数3グループの中で、10年以上が優位に高く(表3参照)、滞在年数における不安や悩みと不定愁訴との関連(表4)では、滞在年数が長いほど、不安や悩みが、親や体の病気、いじめといった不安や悩みへと増加し、それが身体への不定愁訴へ大きく影響していると考えられた。

(2) 在日外国人児童生徒の教育環境

それぞれの担当に人々にインタビューした結果

NPOの主催する日本語教室の先生

学校の教員を退職して日本語教室で教えている先生に尋ねた。

子ども達は、必ず保護者が引率して教室にくることになっている。保護者が同伴できない児童生徒は来れない教室である。ここでは、ドリルなど、教材を用意している。多くの親は日本語が十分話せないの、家での学習は難しいようである。言葉を理解しても意味がわからないまま生活している様子である。

小学校の日本語教室の先生と養護教諭

日本語教室の先生は、学習言語が難しいので、わからないまま中学生になる。話しことばは覚えやすいが勉強は難しいようだ。養護教諭は、在日外国人の児童や保護者に母語の資料を作成して活用している。体調が悪い場合、日本語教室の先生が保健室に連れてくる。体調の悪い児童は、みられないので他の児童と同様に特に、配慮はしていない。

中学校の学習支援と養護教諭

日本語教室以外にグローバルスクールという時間を設け、学習支援をおこなっている。各学年から教員が数名ずつで、その教室で、マンツーマンで授業の補習をしていた。そこでは、学習ノートを作成し、その時間学んだことを日本語で書いて提出させていた。養護教諭は、みな同じ生徒なので特に配慮していない。資料で母語が必要な場合は、日本語教室担当の教師が作成してくれると言う。

中学校の養護教諭

在日外国人の生徒は、とても明るく、感情の表現がストレートなので、日本の子どももそうなってほしいと思うことがある、日本の生徒に良い影響を与えていると思う。困ったときも、自分から保健室に来るし、雑談しにきたりする。

以上のものであった。日本語や学習支援の体制は、整っていることがわかった。しかしながら、在日外国人児童生徒への特別な健康への配慮はみられなかった。

5. 研究のまとめと今後の課題

在住外国人児童生徒は、滞在年数が長くなるにつれ、彼らの進路や親との関係、いじめなどが、身体への不調を増悪させ、健康を脅かしていることがわかった。かれらは、日本語の習得以上に学習言語への進路の壁がある。更に在留資格等の問題を抱える場合が多いため、将来の不安もあり、日本の子どもの健康問題以上に、精神面への悪影響が懸念される。従って、早急に、学校保健の役割として、以下の取り組みが緊急の課題であると考えられる。

全職員の心身の成長段階における在日外国人児童生徒への理解と配慮

- ・不定愁訴と心身健康について理解すること

グローバル視点をもつ養護教諭の育成
・母国の文化や保健学習を理解し、子どもの成長段階に応じた、身体の健康管理について
健康相談活動を通じて支援すること

< 参考資料 >

表1 属性 N=127

	男子		女子		その他		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
小学6年生	18	47.4	20	52.6	0	0	38	100
中学1年生	12	40	17	56.7	1	3.3	30	100
中学2年生	15	50.0	14	46.7	1	3.3	30	100
中学3年生	14	48.3	14	48.3	1	3.4	29	100
計	59	46.5	65	51.2	3	2.4	127	100

表1-2 日本での滞在期間 N=127

	全体	
	n	%
1) 3年未満	24	18.9
2) 3年以上5年未満	19	15.0
3) 5年以上10年未満	25	19.7
4) 10年以上	59	46.5

表1-3 よくわかることば N=127

	全体	
	n	%
1) 日本語	71	55.9
2) 英語	14	11
3) フィリピン語	13	10.2
4) 中国語	9	7.1
5) ベトナム語	7	5.5
6) スペイン語	5	3.9
7) ポルトガル語	3	2.4
8) ウルドゥー語	2	1.6
9) シンハラ語	1	0.8
10) ネパール	1	0.8
11) その他	1	0.8

表2. 滞在年数別、今一番困っていること

5年未満	勉強 学校の勉強が難しい 夏休みの宿題 ことばで苦労している 日本語がわからない 日本語が話せないこと レベル3への試験 友達・自分自身・嫉妬・学校・不安・自傷行為・家族・考えすぎ もし自分の夢がかなわなかったらどうするか
5-10未満	勉強 高校の進学 友達関係 部活のモチベーションがあがらない。自信がない。部活へ行きたいと思わない 家族・学校 コロナとお金
10年以上	勉強 (2) 学校の事 友達関係 自分のこと 自分の性格 身長がのびない すぐにつかれるところ ストレス 頭が痛いこと お母さんが切れやすく、すぐ手が出る。 人生 これからの未来 お金

* () 内は解答者の数

表3 滞在年数と不定愁訴得点の比較

	全児童生徒 N=127			5年未満 n=43	5年以上10年 n=25	10年以上 n=59	p
	n	%	Score	Score	Score	Score	
1) 眠い	100	78.7	2.0±0.9	1.8±0.8	1.8±1.1	2.2±0.7	0.040
2) 横になって休みたい	82	64.6	1.8±1.0	1.6±1.0	1.5±1.2	2.2±0.9	0.047
3) 起きれない	69	54.3	1.6±1.0	1.5±1.0	0.8±0.9	1.9±1.0	0.000
4) 目がつかれる	63	49.6	1.5±1.0	1.4±0.9	1.0±1.0	1.7±1.0	0.047
5) いらいらする	59	46.5	1.3±1.0	1.4±1.1	1.0±1.0	1.4±1.0	0.233
6) だるい	57	44.9	1.3±1.0	1.1±0.9	0.8±0.9	1.7±1.0	0.009
7) やる気がしない	49	38.6	1.7±1.2	1.7±1.3	1.5±1.3	1.7±1.1	0.262
8) 頭が痛くなる	45	35.4	1.1±1.0	1.0±1.0	0.6±0.9	1.3±1.1	0.006
9) 大声をだしたい	43	33.9	1.1±1.0	1.1±1.2	0.8±0.9	1.2±1.2	0.262
10) 頭が重い、ぼんやりする	39	30.7	0.9±1.0	1.0±1.0	0.4±0.6	1.4±1.0	0.000
11) 立ちくらみやめまいがする	39	30.7	0.9±1.0	0.9±0.9	0.5±1.0	1.1±1.0	0.020
12) 肩がこる	37	29.1	0.9±1.0	0.7±0.9	0.5±0.8	1.3±1.1	0.000
13) お腹が痛くなる	29	22.8	0.8±0.9	0.7±0.8	0.7±0.7	1.0±0.9	0.006
14) 人と話すのがいや	28	22.0	0.7±0.9	0.9±1.0	0.4±0.6	0.7±1.0	0.109
合計得点±標準偏差			17.7±8.8	16.7±8.3	12.3±7.5	20.7±8.5	p<0.001

Kruskal-Wallis test p<0.05

表 4. 3グループ間の不定愁訴と不安や悩みとの関係

	1) 学習	2) からだ、スタイル	3) 進学校、顔など	4) ことば	5) 親	6) きょうだい	7) お金	8) おんな友	9) 生活習慣	10) 食べ物	11) おとこ	12) 先生	13) 体の病	14) いじめ	15) 自分の性	17) 地域や海外の親戚のこと	18) 国籍	
5年未満 n=43	相関係数 有意確率 (両側)	0.087 0.581	0.218 0.159	-0.067 0.671	0.206 0.185	.409** 0.006	0.043 0.783	0.291 0.058	0.264 0.087	0.204 0.189	0.180 0.247	0.234 0.130	0.271 0.079	0.118 0.451	0.176 0.260	0.124 0.427	0.192 0.217	0.218 0.161
5年以上10年 未満 n=25	相関係数 有意確率 (両側)	.404* 0.045	0.048 0.818	0.248 0.232	0.265 0.201	.452* 0.023	.539** 0.005	0.185 0.376	0.321 0.118	0.338 0.099	0.138 0.511	0.180 0.389	.416* 0.039	0.306 0.136	0.143 0.495	0.311 0.130	0.173 0.408	0.264 0.202
10年以上 n=59	相関係数 有意確率 (両側)	0.222 0.091	0.088 0.507	.378** 0.003	0.151 0.253	.336** 0.009	.287* 0.028	0.242 0.065	0.186 0.158	.372** 0.004	0.227 0.084	0.229 0.082	.275* 0.035	.301* 0.022	.286* 0.028	.267* 0.041	0.176 0.183	0.206 0.120

スピアマンの順位相関係数をグループ比較に使用 *p<0.05, **p<0.01

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 田中祐子, 小寺さやか
2. 発表標題 外国にルーツをもつ思春期児童・生徒の性に関する実態と課題
3. 学会等名 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中祐子, 小寺さやか,
2. 発表標題 外国にルーツをもつ思春期児童・生徒の身体的精神的健康に関する実態
3. 学会等名 第37回日本国際保健医療学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuko Tanaka, Sayaka Kotera, Chie Koh, Naomi Senba, Kikuko Okuda, Yumiko Ishii
2. 発表標題 Malaise of Adolescent Students in Japan Who Have Foreign Roots related with Coping Behavior and the Major Factors”
3. 学会等名 The 4th International Joint Conference on Nursing Science, "Bring Innovation to Strengthen Society for Resilient and Sustainable Healthcare system" (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuko Tanaka, Sayaka Kotera, Kikuko Okuda, Yumiko Ishii, Hiroko Hashimoto, Kenji Mori
2. 発表標題 Relationship between General Physical Complaints and Anxieties of Foreign-rooted Adolescents in Japan
3. 学会等名 The 14th International Nursing Conference, Korea (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森 健治 (MORI Kenji) (20274201)	徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学域)・教授 (16101)	
研究分担者	奥田 紀久子 (OKUDA Kikuko) (60331857)	徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学域)・教授 (16101)	
研究分担者	橋本 浩子 (HASHIMOTO Hiroko) (80403682)	徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学域)・准教授 (16101)	
研究分担者	小寺 さやか (KOTERA Sayaka) (30509617)	神戸大学・保健学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	高 知恵(椿知恵) (KOU Chie) (60582319)	大阪府立大学・看護学研究科・講師 (24403)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------